

# 事業報告書

令和3年度



公益財団法人 紫雲会

横浜市緑区生活支援センター

## 令和3年度 緑区生活支援センター事業報告書

今年度はコロナ禍での支援センター運営2年目となりました。その状況下ではありますが、昨年度より実施した「18区的生活支援センターにおける機能標準化」について地域や利用者の皆様に浸透し、その目的等への理解も進んだのではないかと考えます。今後はこの標準化の目的をしっかりと業務に反映させ、これまで以上に地域における相談支援体制の強化を目指し、また精神保健福祉活動の拠点としての機能と役割を担っていくことが出来るよう努力していきたいと考えます。

また地域において「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」を進める中、各区において生活支援センターがその中心的な役割を担っていく必要があると感じています。そのために緑区自立支援協議会「精神部会」の場を活用し、地域の多くの事業所の協力を得ながら「にも包括」の構築に向けての取り組みを企画しました。コロナ禍のため次年度へ持ち越しとなってしまった部分もありますが、今後も地域の事業所と協働して地域のニーズを元に、様々な角度からの取り組み事項の検討を進めていきます。

引き続き緑区において、区福祉保健センター、基幹相談支援センター、地域ケアプラザなど各関係機関との協働体制を更に強化し、地域移行の啓発推進、医療との連携強化、困難ケースの受け入れやアウトリーチ支援の体制作りなどを実践ながら緑区の相談支援体制を拡充し、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに繋がる活動を継続して発信していきたいと考えます。

### \*\*\*【事業実施内容】\*\*\*

#### 1. 指定特定・指定一般相談支援事業

計画相談支援については、単にサービス利用を目的とした関わりではなく、地域において本人の希望する生活を実現するための包括的な支援を継続して実施していくことを目的とし、本人を取り巻く関係機関との連絡調整や家族調整など総合的に支援します。状況に応じた対応が不可欠なためモニタリングは重要と考え、コロナ禍においても対策を講じながら実施をしました。また、地域において相談支援事業所が増えている状況の中、地域の計画相談事業所で関わりに苦心しているケース等の相談を受けることも多くなってきています。家族ぐるみの支援が必要なケースや対応に苦慮するケース、病状が安定せず緊急対応を余儀なくされるケース、また触法ケースなど、いわゆる困難ケースに対する支援については生活支援センターが特に対象とするケースと考えており、区の障害支援担当と連携しながら意識的に支援を実施しています。

また、支援の質を担保するためにも、区自立支援協議会の相談支援部会、横浜市や各団体主催の研修等の参加を推奨し、相談支援専門員の知識や支援スキルの向上を図ると共に、対象者の支援方針、支援計画の立て方や方向性についても職員間で共有し意見交換することや、職場内において先輩職員から経験の浅い職員に対してのスーパーバイズの間を積極的に設ける等、支援する側が孤立する事の無いよう配慮しました。

その他、緑区内の計画相談事業所に向けて、自立支援協議会において「相談支援専門員のための部会」を企画運営し、区内の相談支援専門員相互の繋がりや事業所のバックアップ体制の構築を目的として、「支援者支援の仕組み作り」を目指しています。

#### 【3年度実績】

計画相談支援 53件、相談中のケース2件

地域移行支援 2件（内1件は6か月支援実施後、退院サポート事業へ変更）

自立生活援助 1件（不調のため支援継続不可となる）

## 2. 地域活動支援センター事業

### (1) 相談支援

コロナ禍の状況が2年に及んだ中、外出の制限や感染への不安など生活上のストレスが長期に続き、不調を感じる方や大きく体調を崩される方が増えている印象です。

コロナ禍の影響から支援センターへの来館者が減少する中、支援が滞ってしまうなど不安を感じさせることの無いよう、必要な訪問の継続や電話で体調を確認するなど、意識的に支援関係の維持に努めました。サービスの導入等積極的な支援を行うことを優先するのではなく、その方の持つ力を引き上げ、利用者自身の力で自立した生活を目指すことも感染症が広がる状況下では必要なことであり、今後もエンパワメントの視点を持って関わっていきたいと考えます。

また、昨年複数の生活支援センターで対応に苦慮していた方の入院支援を行いました。病状が安定してからは退院後の住居や支援について医療や行政、家族とも連携しながら、地域生活へと移行し、現在は計画相談事業所としての関わりとなり支援を継続しています。このケース等は特に「在住区支援」の方針により緑区に情報が集約されたことと、在住区の利用者であったからこそその区内における関係機関の地域連携を活かすことができた事例でした。生活支援センターは、退院サポート事業や自立生活アシスタント事業など事業としての支援も充実していますが、「基本相談支援」にも重要な役割があることを痛感しています。

今年度は、緑区自立支援協議会精神部会で地域ケアプラザとの連携が更に密になったこともあり、地域ケアプラザからの相談も増えました。支援を協働し進めていく中で、それぞれの分野の関わり方による視点の違いも見えてきており、センター内で複数回の事例検討を重ねながら実際の支援に繋げました。

### (2) 訪問・同行

今年度もコロナ禍ではありましたが、必要不可欠な訪問や同行について精査した上で実施をしました。その際の感染防止対策には苦慮したところです。職員も利用者も同様に感染対策の徹底や必要性を常に意識することや、訪問前には電話にて本人の体調確認をするなど、出来る限り最大限の配慮のなかで支援を行いました。また、感染症への不安などから訪問による支援への心配をされる方には、電話による定期的な連絡などの方法に切り替えることで、継続的な支援を心掛けました。

コロナ禍が長きに渡っていることの影響もあってか、引きこもり状態の方の相談や支援依頼が増えてきている印象です。20年以上の引きこもりから自立をしたいと希望されている方、何とかしたいと不安を述べるが自宅から出られない方などに向けて、本人との関係を丁寧に築き、定期的に訪問や面談を実施してきました。外出する機会を一緒に検討することや、グループホーム利用を提案することなど、本人の思いに寄り添いながら関わり、そしてその近くで見守る家族からの相談にも対応してきました。今後も本人の力や地域事業所の専門性を活用しながら支援を行っていきます。

利用者への定期的かつ必要な訪問に加え、不穏時の訪問や緊急時の通院同行、緊急入院対応などを実施しました。アウトリーチの支援に重点が置かれていくにつれて、緊急対応についてのリスク管理が重要になってきます。緊急時において、各職員が落ち着いて対応すべき状況の判断を見極めることが出来るように、職員会議では事例検討を行い、緊急時の対応について改めて職員全員でマニュアルを確認することや意見交換を実施しました。

### (3) 家族支援

緑区家族会は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いている時期に感染対策を十分に行っ

た上で支援センターが会場提供を行い、開催のバックアップをしました。家族からの相談を受けた際、相談内容によっては家族会に繋ぐことを意識しました。家族会は支援者による個別支援とは異なる作用があり、苦勞の共有や、経験に基づく家族ならではの助言や労いがあり、家族自身が元気になるために重要なものであると考え、今後もオプザーバー参加や会場提供などの家族会のバックアップに努めていきます。

個別支援では、精神障害を持つ子の対応で困っている高齢の親からの相談を受けた際には、地域ケアプラザ職員と出来る限り一緒に訪問をするなど協働して支援を行いました。精神障害の分野においても高齢の親と同居をしている子の世帯、いわゆる 8050 問題のケースは多く、家族への支援は欠かせません。今後も地域ケアプラザとの連携はより重要になってくると考えています。

発症後間もない家族に向けて、緑区福祉保健センターと共催で「家族教室」を例年開催していますが、昨年度に引き続き新型コロナの影響で開催することができませんでした。感染状況を考慮の上、緑区福祉保健センターと令和4年度の開催について検討をしていきます。

\* みどり会定例会・役員会 →新型コロナの影響により状況を判断しながらの実施

\* みどり会新年会 →新型コロナの影響で中止

\* 家族教室 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）

→新型コロナの影響で中止

\* 横浜市精神障害者家族連合会 市民メンタルヘルス講座シンポジウム

「親が健康な内につながっておきたい 横浜市や国の支援」シンポジスト参加

→新型コロナの影響で 2022 年度に延期

#### (4) 当事者活動支援

支援センターのプログラム実施においては、「利用者との協働」を念頭に、利用者の意見を取り入れることを意識しています。今年度は新型コロナ対策のため多くの活動は中止せざるを得ない状況でしたが、その中でも感染症対策に十分注意した中、当事者の活動をバックアップしました。

センター内のショーケースや受付カウンターなどを利用して、利用者さんの特技を活かした自主作品展示などを利用者自身で行っていただきました。「手芸プログラム」においては、作品作りをスタッフが主導するのではなく、利用者同士で教え合いながら進め、また作成する作品内容やプログラムの開催日時についても、利用者と一緒に考えて決めています。

今年度新たな試みとして、「こころの元気+まつり」のオンデマンド配信を利用し、センターフロアにて上映会を実施しました。内容は「①私の働く生活ストーリー」「②こんなとき、あんなとき…私の打ち手！」と題して、計7名の当事者が発表者となりご自身の体験を語るものでした。センターの参加者からは「大変参考になった」等好評でした。

また、支援センター連絡会「ピアを考える会」の代表としての役割を持つ職員が、健康福祉局とのピアサポートへの取り組みについての話し合いに参加しました。今後は次年度に向けて健康福祉局主催の「ピアサポート検討会」の委員として、「ピアスタッフ」に関する普及啓発、及び養成、フォロー体制等についての検討を続けていくこととなります。

\* 「手芸サークル」年5回開催 24名参加

\* 「支援センター連絡会 ピアを考える会」3回実施

\* 「ピアサポートの取り組みについての話し合い」健康福祉局主催に参加

\* 「こころの元気+まつり」上映会 2回

## (5) 地域交流・地域連携

### 【緑区自立支援協議会での取り組み】

#### ○事務局運営

緑区自立支援協議会においては、事務局として企画運営に携わっています。感染症蔓延下でも部会を開催することを今年度は目標とし、運営方法などについて検討していきました。年度末の全体会において、自立支援協議会全体を振り返り、課題を整理し、次年度の運営につなげることができたことは、成果のひとつです。

一方で、市自立支援協議会において今年度試行的に提案された「LINE ワークス」については、センター業務の合間での定期的なLINE 閲覧が実施出来ておらず、次年度に向けての懸案事項となりました。

#### ○精神部会

今年度も生活支援センターが中心となり、「誰もが高齢分野と連携ができる」をテーマに、地域ケアプラザと一緒に高齢化問題や8050問題といった地域ニーズをもとにした部会を実施することができました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大している状況により計画通りに進めることはできませんでしたが、年度を跨ぐ形で部会の開催を実施する予定で、今後も地域事業所や地域ケアプラザを巻き込んだ形で部会を進めていきます。

#### ○グループホーム部会

新型コロナの影響がありましたが、比較的感染状況が落ち着いている時期に集合形式で2回、オンライン形式で1回、計3回実施することができました。対応に苦慮している入居者の相談や、意思決定支援や個別支援計画などをテーマに話し合いをしました。

### 【地域ケアプラザとの連携】

- \* 東本郷地域ケアプラザ主催「地域ケア会議」に参加

高齢で精神障害がある個別ケースの検討を目的に、ケアプラザ職員、区高齢担当、民生委員などの参加者とケア会議を行いました。

- \* 「こころの病を知る講座」（東本郷地域ケアプラザと共催）開催

対象：居宅介護支援事業所のケアマネージャー

内容：生活支援センター事業紹介、高齢者分野と連携

### 【その他】

例年開催していた合築施設の特性を活かした「3 障害合同のお祭り（秋のコスモスフェスタ）」は昨年に引き続き新型コロナの影響で中止となりました。お祭りが出来ない代わりに、合築施設が地域にあることを知ってもらうため、みどり地域活動ホームあおぞらと支援センター合作で「合築施設のパンフレット」と「クリアファイル」を作成しました。

## (6) 自主事業

※詳細については【資料4】参照

行事、プログラムについては、新型コロナ対策を講じた上で出来る範囲での実施となりました。感染症が蔓延する中で外出の機会が減り、生活を楽しむこと、仲間とのつながりやその維持が難しい状況でも、緑区の地域性を活かし感染症対策を検討した上で、近隣にある「ズーラシア動物園」の散歩プログラムを企画・実施しました。当日は脳梗塞を患った利用者も参加され、「退院後こんなに歩けたのは初めて。みんなと一緒にだから歩けた」と嬉しそうに話されていたのが印象的でした。仲間と一緒に楽しめる機会や

場作りを考えていくことは、支援センターの大切な役割のひとつであると再認識することができました。

### (7) 情報提供

法制度の情報や必要な種々の社会資源の情報（グループホーム募集情報、就労関係、企画イベント）、新型コロナウイルス感染症とワクチン接種について、適宜様々な方法（センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック等）を用いて利用者やご家族、関係機関等に提供しました。より見やすい館内整備の工夫を心がけることや、情報提供の重要なツールであるホームページでは、その中のブログ機能を活用しタイムリーな情報発信をすることができています。また、ホームページではウェブアクセシビリティに関する仕様書に基づき配慮を行っています。

### (8) その他

利用者アンケート、メンバーとの意見交換、意見箱及び利用者から寄せられた直接的な意見や質問等について職員ミーティング、職員全体会議において協議し、早急に対応すると共に、掲示や個別の対応、説明等により利用者に向けて回答し内容等を周知しました。

## 3. 退院サポート事業

※統計については【資料2】参照

今年度は13名の「個別支援」を実施し、利用者の希望する生活を目指しました。そのうち、3名の方は医療機関や地域支援者と連携をしてグループホームや生活訓練施設へ退院されました。退院後も支援を途切れさせない関わりを実践し、当事業のフォローや計画相談にて引き続き支援を行っています。

今年度も医療機関にはコロナ感染症予防のために院内面接や外出の制限があり、当事業ならではの「動機づけ」への支援に関しては、コロナ感染症予防が優先され、利用者に出会うことすらできない状況もありました。今後は他区センターとも共有・検討しながら、コロナ禍での支援のあり方やその工夫など図っていければと考えます。

また、高齢や認知症を専門とする担当病院に向けた普及啓発活動もコロナ感染症予防の観点により、活動の投げかけや病院に入っていくタイミングを計ることが難しく、思うように実施ができませんでした。ただ、この状況を北部ブロック会議の議題とし、北部ブロック全体で普及啓発活動の実施について考えいく提案を行いました。整理はまだついてはいませんが、病院との協働について今後も検討していきたいと思えます。

さらに今年度も退院サポート事業の幹事区として定例部会の開催、研修開催の企画運営に携わってきました。また今年度から北部ブロック会議の実施が開始となり、北部ブロックの幹事区として全体部会に繋ぐ役割を果たしてきました。そして、生活訓練施設と幹事区を中心に定期的な打ち合わせを実施し、オンラインで対応する事で昨年度実施出来なかった「生活訓練施設との研修会」を実施する事ができました。

緑区としては「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に関わる説明会」では退院サポート事業の役割についての発表も行いました。個別支援ケースやピア活動を取り入れた協働活動を紹介する事で、退院サポート事業のことを周知することができました。今後も他区センターと協働しながら、地域移行に向けた個別支援の充実、「にも包括」の構築といった地域づくりに努めていきたいと思えます。

- \* 「退院サポート幹事区会」6回実施
- \* 「北部ブロック会議」7回実施
- \* 「生活訓練施設打ち合わせ・研修企画」6回実施
- \* 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に関わる説明会」1回実施

今年度は計 24 名の個別支援を実施しました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の予防に最大限努め、電話での体調や状態の確認、必要な状況であれば訪問や同行を実施しました。

今年度の特徴としては、精神科以外の内科的な病気の罹患や、病気により身体機能が低下する利用者が複数いたことです。体調悪化による日常生活上の困難や、精神的に大きく不安定になる利用者を医療、福祉等の支援者と連携して支援をしました。その中で自立生活アシスタントの大きな役割だと認識したことは、診察同席をすることです。利用者の心理面の受け止め、状態把握をして今後の支援の見通しを立てるために重要な場面だと考えています。

自立生活アシスタント事業の利点として、柔軟性が挙げられます。自立生活援助事業による支援から始まり、標準利用期間である 1 年が経過して利用終了後、課題が残っていたため自立生活アシスタント事業を利用して支援を行いました。自立生活アシスタント事業は終結を見据えた支援が前提ですが、利用期間などの枠は特になく、柔軟に利用ができる事業だと認識しています。

事業所内で定期的に自立生活アシスタント担当者会議を行いました。個別支援の検討を主な目的として行っています。自立生活アシスタントの支援における大切なポイントなどを新人職員に共有ができる人材育成にもなっており、今後も続けていきたいと考えます。担当者間で困難ケースの共有や検討をし、より良い個別支援につながっています。

**\*\*\* 【普及・啓発活動】 \*\*\***

精神の障害に対する偏見や差別はまだまだ根強く、その為地域での生活に支障があると感じている当事者・ご家族は多いのが現状です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は必須であり、継続して実施していく必要があると考えていますが、今年度は新型コロナ対策のため可能な範囲での実施となりました。

**《講習会・研修会・相談会の開催》**

- ① 「家族教室」 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）  
➡新型コロナの影響で中止
- ② 「横浜市精神障害者家族連合会 市民メンタルヘルス講座シンポジウム」  
内容：「親が健康な内につながっておきたい 横浜市や国の支援」シンポジストとして参加  
➡新型コロナの影響で 2022 年度に延期
- ③ 「横浜生活あんしんセンター主催 横浜市市民後見人養成課程（基礎編）」講師として参加  
目的：地域における権利擁護推進を担う市民後見人の養成  
内容：当事者理解（精神障害のある方の支援について）
- ④ 「精神科医療機関における講座、当事者との協働活動」  
➡新型コロナの影響のため以下の打ち合わせのみ実施
  - ・カメラアホスピタル「地域包括ケアシステムについて」意見交換
  - ・あさひの丘病院「キャラバン隊 かめ」「未来クラブ」打合せ
  - ・ほうゆう病院、元気会横浜病院「現状把握と今後についての共有」連絡
- ⑤ 「こころの病を知る講座」東本郷ケアプラザと共催  
対象：居宅介護支援事業所ケアマネージャー  
内容：生活支援センターの事業紹介、高齢分野と連携した事例、意見交換

## 《市民向けのイベントへの参加》

### 「緑区役所障害者週間イベント」

- \* 実行委員会（開催に向けた打合せ5回、振り返り1回実施）
- \* 開催：12/1～12/3 場所：緑区福祉保健センター1階展示室
- \* 支援センターおよび緑区内各事業所紹介と作品展示、パラリンピック写真展
- \* 障害者週間オリジナル缶バッジの作成と配布

## \*\*\*【その他】\*\*\*

### 1. 緑区自立支援協議会「精神部会」

自立支援協議会の専門部会として令和元年度に「精神部会」を立ち上げ、企画・運営を行ってきました。精神部会では、地域のニーズを、地域事業所を巻き込んで考えていくことに重点を置いており、そのプロセスが「にも包括」構築のプロセスと同様であるため、精神部会を活用して「にも包括」構築を目指していく認識で進めました。

今年度は高齢化問題という地域のニーズを基に、「にも包括」認識の共有や地域ケアプラザとの連携について考えていける内容を地域ケアプラザと一緒に企画し実施しました。そこから地域で取組んでいく課題を整理していく部会開催を企画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により実施ができませんでした。ただ、中止はせずに延期とし、年度を跨いで実施する予定です。次年度は地域事業所を巻き込み、地域事業所と一緒に課題抽出や取り組み実行ができればと考えます。

### 《企画した活動内容》

- ・ 第1回「地域ケアプラザを知る／にも包括を知る」  
内容：地域ケアプラザとは…講師：地域ケアプラザ職員
- ・ 第2回「地域ケアプラザが進める“地域包括ケアシステム”を知る」  
内容：地域ケアプラザで進めている地域包括ケアシステムを学ぶ…講師：地域ケアプラザ職員  
※令和4年度6月頃に実施予定

### 2. 緑区自立支援協議会「相談支援専門員のための部会」

参加対象者を相談支援専門員に絞り、計画相談支援事業を進めていく上での実務上の困りごとを話し合うとともに、法定研修受講者のインターバル期間の受け皿としての活用も視野に、企画・運営を行いました。年間5回実施し、「ネットワークづくり」や「サービス担当者会議主催にあたってのポイント」などをグループワークで話し合いました。今年度は区内の相談支援専門員のつながりができ始めたところです。次年度は学びあえる機会を企画していきたいと思えます。

### 3. 職員資質の向上・人材育成

より質の高い支援の提供を目的に、外部研修への参加奨励、支援センター内部での職員研修会等を実施し、人材育成の一環として職員の資質と知識の向上や対人援助職としてのメンタルケアやモチベーションの維持に努めました。研修会での講師やインストラクター等について外部から依頼を頂いた際には、双方の人材育成の視点から、積極的に参画しました。

また、緑区生活支援センターの特記すべき点として、「新人職員の育成」について挙げられます。入職した新人職員にはそれぞれに「担当職員＝スーパーバイザー」をつけており、定期的な振り返りを実施しながら職場内スーパービジョン体制を取っていく形が、しっかりと体系化し定着しています。先輩職員に相談するという土台作りが出来ていることで、経験を積み重ねても壁にぶつかった時には「相談できる」



という意識が、職場内に出来ていると考えます。

職員会議においては、事例の共有とその検討から、各職員への気づきへと繋げる形を、職員同士が自然な形で理解できており、会議においてもグループスーパービジョンを実践することが出来ています。

#### 《今年度支援センターで実施の職員研修、勉強会等》

##### 【伝達研修】

- \* 「ゲートキーパー養成講座」
- \* 「発達障害者相談応用研修」
- \* 「記録の書き方」
- \* 「OJT 研修」
- \* 「苦情対応基礎研修」

##### 【内部研修】

- \* 「記録について」
- \* 「この仕事を続けるために」
- \* 「個人情報保護研修」
- \* 「人権研修 2021」 ※権利擁護と虐待防止を含む
- \* 支援困難事例について、職員会議、職員ミーティング等における「事例検討」5 回実施

#### 4. 実習生の受入れ

今年度はコロナ感染症予防を徹底しながら実習生の受け入れ体制を整理し、将来の福祉の現場を担う新人育成の一環として学生の受け入れを行ってきました。実習内容に関しても、実習成果を発表してもらうなど新たな試みも実施し、コロナ禍でも出来ることを模索してきました。

また、公認心理師資格を目指す学生に対し、オンラインにて実習を行うことができました。直接現場を見ることができないことや、利用者との関りが持てない状況ではありますが、オンラインなど工夫をして今後も実施ができればと考えます。

\* 田園調布学園大学 実習生受け入れ…実習生 1 名、計 12 日間

\* 「生活支援センター実習」…参加生徒：計 15 名、実施回数：2 回

対象：東洋英和女学院大学 人間科学部 人間科学科 公認心理師資格取得希望のある生徒

実施内容：センター紹介/地域連携の説明

#### 5. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時、緊急時の対策等について日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、緑区役所との「福祉避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）と災害用備蓄品を整備し、使用方法等職員全体で確認する等、避難所としての整備を固めました。

合築の地域活動ホームとは年 2 回の「合同避難訓練」の実施を行い（今年度は新型コロナ対策のため 1 回の実施）、災害時や不穏者への対応方法の共有や、双方の事業所の早朝・夜間勤務体制、緊急時連絡体制の確認等を行いました。また、有事に備えての「福祉避難場所連絡会」に参加して、緑区高齢障害支援課、総務課の担当者と水害の対策などの話し合いを実施するなど、利用者が安心して支援センターを利用して頂けるよう、合築の建物全体の問題として安全管理・災害対策に取り組んでいます。

また緑区社協役員会、定例会では、大規模災害時を想定した訓練の一環として「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」の取り組みを継続的に実施しており（今年度は新型コロナ対策により見合わせ）、地域の横の繋がりと近隣施設との顔の見える関係作りに繋がりました。また中山町地域防災訓練（今年度中止）では、地域での有事における連携体制の確認をするなど、大規模災害時など、万に備えて具体的な備えをすると共に、地域や近隣福祉施設との連携の強化に繋がっています。

## **6. 衛生管理**

年2回、清掃業者による館内全体の清掃、及び月4回近隣地域作業所による清掃（委託）、毎月1回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行い衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については食中毒防止の観点からも清潔を保つよう徹底しました。またノロウイルス、新型コロナウイルスの対策として、手洗いの推進、入口自動ドア前、トイレ出入口付近、調理室前等に手指の消毒液を設置、開館、閉館時、夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル、手すりや椅子等の消毒を念入りに実施しました。また汚物処理方法のマニュアルを職員で共有するなどの予防に努めました。

## **7. 新型コロナウイルス感染症対策の実施**

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため、出来る限りの工夫と対策を実施しながら、センターの運営を行いました。

### **【利用者】**

- ・来館時の検温、手指消毒、マスク着用などの徹底
- ・夕食サービスの利用における人数制限の設定
- ・入浴、洗濯の事前予約制度の設定
- ・飲食や密を避けるため、プログラムや行事等の実施検討又は中止
- ・利用者の健康状況や様子の見回り

### **【館内】**

- \* 開館・閉館時、食事前後、また適宜に館内の消毒実施
- ・空気清浄機等の設置（フリースペース 3 台、職員室 1 台、相談室 各 1 台、休憩室 1 台）
- ・フリースペース、相談室、静養室など換気や消毒（手指消毒用アルコールの設置）
- ・飛沫防止のための設置物  
ビニールカーテン（受付）、アクリル板（食堂各テーブル、相談室、職員室、受付）
- ・情報発信、予防啓発のチラシ等掲示

### **【職員】**

- ・出勤前と勤務前の検温、手指消毒、マスク着用の徹底
- ・情報共有（県や市からの情報など）
- ・共有物の消毒
- ・休憩時間後の休憩場所の消毒
- ・家族の体調不良についての報告
- ・ワクチン（3回目まで）の接種

令和3年度 緑区生活支援センター 年間運営状況

※（）内…昨年度実績

開所日数		308日	
登録者数	令和3年度登録	45(26)名	
	全登録者数	1351(1306)名	
利用者数	本人	2325(2343)名	8.0(7.6)名/日
	家族	191(167)名	0.6(0.5)名/日
	ボランティア・関係機関	143(72)名	0.5(0.2)名/日
相談支援	電話相談	5590(6032)件	18.1(19.6)件/日
	面接相談	657(624)件	2.1(2.0)件/日
	訪問・同行	398(450)件	1.3(1.5)件/日
	非構造面接	294(356)件	1.0(1.2)件/日
	嘱託医相談 38回実施	13(28)件	0.3(0.7)件/回
	心理士相談 20回実施	20(13)件	1.0(1.3)件/回
各種サービス	夕食サービス・週3回提供	987(875)名	7.4(7.4)名/日
	入浴サービス	137(191)名	11.4(13.9)名/月
	洗濯サービス	160(96)名	12.9(8.0)名/月
	インターネットサービス	17(36)名	0.1(0.1)名/日

退院サポート事業 年間実績

3年度 個別支援者数 (退サポ： 15名 地域移行支援： 2名)						
退院サポート事業	支援継続	9名	退院者	3名	アパート設定	0名
	退院後フォロー	1名			自宅	0名
	相談中	2名			GH	1名
	支援終了	3名			生活訓練施設	2名
(計画相談へ移行 2名、支援中止 1名) ※中止の理由：入院病棟閉鎖のため支援が困難となったため						
地域移行支援	退院サポート事業へ移行 1名					
3年度 啓発活動 (計4回)						
病院	・患者対象：1回 ・院内職員対象：3回					
関係機関・地域	・関係機関：0回					

《普及・啓発活動》

- ・カメラリアホスピタル「地域包括ケアシステムについて」意見交換
- ・あさひの丘病院「キャラバン隊 かめ」「未来クラブ」打合せ
- ・ほうゆう病院、元気会横浜病院「現状把握と今後についての共有」連絡

## 【資料3】

## 自立生活アシスタント事業 年間実績

※ ( ) 内…昨年度実績

3年度支援者数		登録者	(24)名	相談中	(3)名	
支援内容	面接	46 (47) 回	心理情緒	587 (500) 回	衣食住	468 (403) 回
	訪問	131 (156) 回	医療健康	505 (478) 回	対人	287 (206) 回
	同行	21 (30) 回	消費生活	174 (226) 回	就労	120 (96) 回
	ケア会議	10 (11) 回	関係機関との連携	30 (68) 回	余暇	9 (27) 回

## 【資料4】

## 緑区生活支援センター自主事業報告

## 【プログラム】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
5回	手芸サークル	ミーティング、自主制作	支援センター	24
9回	余暇支援	スクラッチアート、謎解き	支援センター	35
10回	センターソフトボール	ソフトボール練習	白山ハイテクパーク	101
2回	元気+まつり上映会	「私の打ち手！」当事者より	支援センター	10
1回	メンバーミーティング	センター利用について	支援センター	4
38回	嘱託医相談	精神科医師による相談会	相談室	13
20回	心理士相談	心理士による相談会	相談室	20

## 【季節の行事】

月	プログラム名	内容	場所	参加人数
10月	ズーラシアお散歩	ズーラシア動物園の散策	横浜ズーラシア	22
1月	初詣	近隣の神社へ初詣	中山杉山神社	8
3月	ひな祭り	家族より寄贈のひな人形飾り	支援センター	2

## 【地域交流】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1回	あおぞら合同防災訓練	避難訓練	合築施設全館	25

## 【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
4回	出張個別相談会	地域の方に向けた相談会	東本郷ケアプラザ	4
8回	家族会定例会・役員会	オブザーバー参加	地域交流室	75